

なぜ？なに？……御忌



「お念仏をとなえれば、誰もが極楽浄土に往生できる」

土宗寺院で、御忌法要が勤められています。

この教えを掲げ浄土宗を開き、生涯をかけて説き広めた法然上人（1133・1212）。その上人のご命日1月

明治10年に知恩院が日程を4月に変更してから、他の大本山や一般寺院でも、他の時期に盛大な法要を勤める

25日に、そのご遺徳を偲ぶ法要を御忌（御忌会）とい

ています。ところも多くなっています。



知恩院の御忌

は、昔から京都の春の風物詩とされ、春の季語ともなっています。

なには女や

京を寒がる

御忌詣

（与謝蕪村）

もともと天皇・皇后の年忌法要の尊称であった「御忌」という言葉。16世紀、これを法然上人の年忌に使い、7日間の法要を勤めるようにと、後柏原天皇が総本山知恩院に詔勅をされました。今では、多くの浄

え、心にも春を迎えましょう。御忌法要で共にお念仏をと

御忌の意味

「お念仏をとなえれば、誰もが極楽浄土に往生できる」、この教えを掲げ浄土宗を開き、生涯をかけて説き広められた法然上人（1133年4月7日・1212年1月25日）ですが、そのご遺徳を偲ぶ法要を御忌（御忌会）といっています。

もともと天皇陛下・皇后陛下の年忌法要の尊称であった「御忌」という言葉を1524年、後柏原天皇が「法然上人の年

忌に用い、7日間の法要を勤めよ」と、総本山知恩院に詔勅を下しました。以後、全国の浄土宗寺院でも、御忌と称して法要が勤められるようになります。

明治10年に知恩院が日程を4月に変更してから、他の大本山や一般寺院でも、1月25日のご命日とは別に、4月に盛大な御忌を勤めるところが多くなっています。

法然上人は、「念仏の声するところすべてが私の遺跡である」とご遺言なさっています。私たちそれぞれが極楽への往生を願って一心にお念仏をとなえること、それが、そのまま上人への最上の報恩にもなるのです。

